

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500484		
法人名	社会福祉法人 恩賜財団 愛知県同僚援護会		
事業所名	グループホーム春緑苑		
所在地	愛知県 春日井市 廻間町 703番地1		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士のカロリー計算のもと献立を作成。毎日2回、特養厨房に食材を取りに行きグループホームの台所で作っています。 ・お風呂は毎日入浴できるようにしており、入居者が自由に入浴しています。 ・入居者の「できる・できない」をしっかり把握し、できることはできるだけ長く、できない事も少しの間わりで、続けられる様に、残存能力を維持するよう努めています。介護計画書は半年ごとの見直しだけではなく変化があれば随時変更しています。 ・当ホームでは軽度な方が中心で生活しています。入所後、常時ケアが必要となった場合は、バックアップ施設である法人の特別養護老人ホームへ転居していただき、継続してケアを受ける事ができます。 ・当ホームでの利用料は安価(1ヶ月約10万円程度)で設定されており、全室個室で洗面所とトイレが設置されており、保証金などありません。 ・施設内にエレベーターがあり、2階への昇降も安全で、スムーズに移動出来ます。 ・QC活動に取り組む事で、業務改善を図り、入居者が楽しく安心して生活していただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者参加型の夏祭りや運動会、開設記念祭の法人合同の行事が1年の行事として地域の住民に認識されてきて多数の地域住民の参加があり、地域との交流は盛んに行われている。記念祭の出し物を利用者と職員とで作ったり、ゲートボール大会参加のための練習もはじめ体力作りにも力を入れている。職員は利用者一人ひとりの力を見つけ出し、普通の生活を続けられるようにサポートし利用者は生き生きと生活している。職員は研修や講習会に積極的に参加し、ケアの向上を目指している。今年から運営推進会議を規定どおり6回開催し、多数の家族の参加のもと活発な意見交換が行われ、話し合いの中から進歩の気持ちを忘れず前進して行きたいと考えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を玄関や事務所に掲示している。またこの理念を基本とし、個々にあった介護計画をたてている。また、朝礼やミーティングなどで話し合いをしている。	「生活の継続を大切に」の基本理念の基に7つの指針があり、利用者が普通に暮らせる生活の継続と、自己決定が出来る問いかけを職員は大切にケアを行っている。職員は法人の新人研修で理念を学び共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・運動会、盆踊り、開設記念祭等、地域の方達に参加して頂くことで交流を図っている。 ・大正琴のコンサートに招待され、毎年参加している。 ・高蔵福德神巡りなど地域の行事に参加している。 ・警察学校のボランティアがあり、散歩に出かけたり、レクリエーションを楽しんだり、話をしたりコミュニケーションをとっている。	行事のポスターを掲示し、招待状で地域の住民を招き法人全体で数々の行事が行われ参加者は1500人以上になり、1年の行事として地域住民は認識している。警察学校のボランティアは認知症の理解を深める良い機会として、年3～4回の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を通して、認知症についての意見交換を行なっている。 ・地域の方から相談があれば積極的に対応し、また実習生の受け入れも行なっている。 ・近隣施設へ牛乳パックやアルミ缶を渡し、再利用に役立てている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議に市役所職員、地域包括センター職員の他、民生委員、区長、家族が出席し、ホームの活動や入居者の状況、防災訓練実施状況、職員研修の報告などが議題に挙げられ話し合いをしている。	各方面の参加に加え家族の参加も活発で、議題は普段の利用者の様子をビデオや写真で紹介をし、認知症についての話し合いを中心に進めている。6回目の運営推進会議は寿司ロボットによる食事会を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・施設の運営について不明な点や確認すべき点などは市役所の担当に相談や確認をしている。	施設長が認知症認定審査会に属しているのので役所には毎日のように出向いていて、相談や問題点の解決は密に話し合わせ連携を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はしていない。 ・ひとり勤務時(夜間等)の場合のみ防犯のため施錠を行う。	利用者個々の外出パターンを把握している為、外出も自由に出来、利用者本位に接している。職員は身体拘束についてミーティング時注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・一般的な解釈での虐待について、全職員認識しており、施設内での虐待が起きないように注意をし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、成年後見人制度を利用している入居者がいる為、実態を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前に入居者、家族との面接を行い、入居に関する説明をし、不安や疑問点を尋ね確認する。入居時には契約書、重要事項説明書について説明し、同意してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・入居者からの意見や要望は日々の会話の中で聞き取るよう心掛け、ミーティング等で話し合い支援に反映している。 また家族からは面会時に意見を聞いている。そして、意見箱、苦情解決窓口を設置し第三者委員会を設けている。	利用者の小さな訴えや言葉も見逃さず記録し、職員で共有し支援している。家族の面会は多く、その都度話を聞く時間を設けていて、意見・要望等は職員で話し合い、早い解決に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・春緑苑の全体会議やグループホームでの職員会議で、意見や提案を聞く機会を設けている。また、申し送りやミーティングで職員の意見や提案言う機会も非常に多い。	月1回の全体会議後、職員会議が行われその後グループホームミーティングがあり、合同と個人面談のどちらでも意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回自己評価をし、上司による勤務評定の実施を行っている。 ・上司が面談などの機会を設け、意見を聞き各自の向上心や条件整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人の勉強会に参加している。県GH協主催の研修などの外部研修にも参加できるようにしている。参加できない職員には参加した職員による報告会や復命書を閲覧することで学ぶ機会となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県GH協に加盟しており、東尾張ブロック地区の会議に参加し、意見や情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に相談者から得た情報を基に、本人と面接を行い、今困っていることや、現在の詳しい状況、本人の生活歴などを聞き、事前アセスメントを行い、ホームでの支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前にご家族から入居希望者の情報を聞き詳しい状況等を把握し、ホームでの支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた際には他職種や関係機関と相談を行い、他のサービス事業者からも情報を収集し必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・主体は入居者であり、家事全般において、入居者と一緒に行っている。個々に違いがあるため、それを見極めてできないことを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・法人の行事などにも参加して頂き、病院受診や衣類の交換など、家族にも入居者を支える一員であるという場面を作っている。生活記録などを毎月送付することにより家族にも入居者の生活を知って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人や元職場の同僚や後輩、近所の人などが定期的に訪ねて来ている。 ・年賀状や手紙を出したりして、入居者が築いてきた関係維持に努めている。	家族との時間を大切にという視点から、馴染みの喫茶店や理美容院、外食も家族の同行が多い。数人単位での買物や外食は職員が支援している。法人全体での記念祭の折には、友人の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者にとっての不快感は回避出来るような対応に努め、楽しい思いや得意分野での活動ができるような関わり、支援に努めている。(ストレッチ体操・計算ドリル・塗り絵など) ・入居者同士体調の事を心配したりいたわりの言葉も聞かれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・施設移動や入院等から退所となった場合、同一法人内での利用に対しては行事、催事と共通な関わりをもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人の意向やどのようなグループホームでの生活を希望されているのか直接聞いたり、一人ひとりの行動かや表情から感じ取ったことを申し送りやミーティング、サービス担当者会議等で話し合い、把握に努めている。	会話が出来る人が多いので、毎日の日常会話の中などで、思いを聞く機会が多い。聞き取った情報は、申し送りノートや個別の記録に書き記し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所に至るまでの経過、生活歴等を入居時に家族や他のサービス事業所に情報提供してもらっている。そのアセスメントをファイルして情報を職員間で共有し、ケアプランにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ケアプラン・生活記録で把握出来ている。 ・毎日の血圧測定・検温、月一回の体重測定、月一回の定期診断、処方箋、年一回の定期健診実施。毎日の体調確認、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・半年ごとにカンファレンスを行い、その時に応じた対応、方法等を意見交換し、入居者、家族に対し不安感のない生活支援を介護計画として作成している。	介護計画に沿った毎日の生活記録を詳細に記録しており、月に1回、モニタリングを行っている。半年ごとにそれらを基にして、家族の要望などを取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・起床から就寝までの様子、状況また夜間の状態を対応者による記録、ヒヤリハット等申し送りにおいて情報を共有し、今後の介護計画やミーティング等での話し合いで見直し、検討に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入居者や家族の状況や要望に応じ、何が今必要かを常に考え対応している。通院や付添支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事に参加したり、買い物や外出の企画を立て、外に出る機会を作り支援している。 ・地域の美容院、病院を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・緊急時以外はそれぞれのかかりつけ医を優先している。また、専門医の受診が指示された場合、紹介状を出してもらい協力医と専門医の連携で受診が行われている。	協力医の往診は、月1回行われ、入居前からのかかりつけ医や専門医へは、家族が受診に付き添っている。医療機関との連携は、その都度、密に取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・入居者の体調変化があったらすぐに、看護師や協力病院の医師に連絡(24時間体制)を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院関係者との情報交換や相談にも努めている。基本的には家族や職員に伝えてもらっているが、個人情報に関係から病院側が入居者の情報は家族にしか伝えていない場合は、家族を通して情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合こでの生活の継続、もしくは本人、ご家族の希望により併設の特養利用が可能である事を事前に説明している。	看取りや重度化についての説明は、入居時に細かく行われ承諾を受けている。利用者、家族からの要望があれば、医療連携その他、看取りへの体制を整えている。法人内に併設施設があることで、家族の選択肢もあり、安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを備えている。 ・春日井市消防署職員を講師に迎え心肺蘇生法やAEDの使い方、初期対応の仕方など研修を受けている。 ・応急手当普及員講習を受け資格を持った職員もおり、指導のできる環境がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・入居者と一緒に避難訓練を毎月実施している。また法人内では年一回、職員の非常呼集を実施しており、職員の役割分担もしている。 ・非常食(3日分)を常備している。 ・中日本コーポレーションによる消火器の取り扱い方、消防職員による災害時の教育訓練を実施している。	毎月、避難訓練を行い、利用者が災害に遭遇した際に、落ち着いた行動ができるようにしている。職員は、年1回、非常時の想定で呼び出しを受けたり、消防署の講習会に参加するなど、防災教育に力を入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として尊敬の念を持って接している。また、言葉遣いやマナーなどの勉強会も定期的に行っている。	親しさの中にも節度を持った対応に努め、年長者に対する敬う気持ちを忘れないようにしている。気になる言葉遣いなどには、その都度、声かけをして見直す機会を作っている。写真の取り扱いについては入居時に説明し、掲載許可をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者の出来ない部分を職員がカバーして出来る事を引き出し不穏にならない様支援している。また、相談があった時には自己判断できるように一緒に考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事・食材運び・入浴の時間はある程度決まっているが、それ以外は個々のペースで生活できるよう支援している。 ・天気の良い日には散歩等の声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・化粧品や衣類を家族や、職員と一緒に買い物に行き、本人が選び購入している。 ・行きつけの美容院にも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の調理や盛り付けは入居者の出来る事を把握して入居者主体で楽しみながら行っている。 ・月に一度のお楽しみ会、季節・行事に合わせた行事食が楽しめる。	法人で献立作りや食材の購入を行っており、利用者と共に取りに行き調理をしている。利用者は出来る事を大切に、調理や洗い物などに積極的に参加している。すしバイキングや、バーベキューなどの行事食は、利用者の楽しみとなっている。	
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスについては管理栄養士の立てた献立を入居者と一緒に作っている。 ・水分補給は記録を取る事で一日1500ccを目標にしている。(本人に応じた水分量。) ・職員と入居者が同じ食卓を囲み和やかな雰囲気ですべて食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の歯磨きの実施と義歯の方には就寝前、入れ歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々に排泄管理を行って、排泄パターンの把握や、声掛けが必要であれば、促している。 ・各居室にトイレがあり、プライバシーに配慮し自立支援にも努めている。	ほとんどの人が自立しており、必要な人のみ排泄チェック表を記入し、時間をみてトイレに誘導している。夜間は、睡眠を優先し、パットを使用する人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取と食材運びに毎日出掛けていることで便秘予防に努めている。 ・ヤクルト乳酸菌を毎日飲み腸内環境を整えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎日入浴可能であり、入浴については自己決定してもらっている。 ・入浴剤を入れたり柚子湯や菖蒲湯など季節のお湯を楽しめる様工夫している。	毎日、午後に入浴出来るように準備がされており、順番など利用者の思いに合わせた対応をしている。シャンプーなども個別の物が用意され、それぞれが入浴を楽しむことが出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・いつでも居室での休憩をしてもらえるようにしている。エアコンも個室に完備しており、使用して気持ちよく休んでもらっている。 夜間は医師の指示のもと、不眠の方で必要があれば眠剤を服用し、安眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋をファイルに綴じている。個々の薬の袋に用法・副作用・用量を掲載している。 ・服薬時にも、ダブルチェックをして誤薬の防止に努めるなど確認を怠らないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・食事作り・散歩・買い物、それぞれに気分転換の支援をしている。 ・入居者が得意とする塗り絵や歌、計算、漢字プリント、囲碁等を個々のレベルに合わせて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・職員と一緒に買い物、食事や墓参りなど希望にそった外出しており、家族にも協力してもらっている。 ・散歩から遠出の行楽など、入居者の希望を聞きながら支援している。	毎日2回、散歩を兼ね、自然を楽しみながら法人内に食材を取りに行っている。遠方へは、アクアトやなばなの里に出かけたり、地域行事の高蔵福德神巡りなどにも参加している。地域ボランティアの大正琴の発表会や福祉のつどいにも出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理出来る人については所持してもらい、使用可能な状況である。 ・買い物時には本人の財布を準備し、支払いなど、入居者が支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があればいつでも応じることができる。 ・年賀状や近況報告の手紙など定期的に出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングや居室は温度、湿度に気を配っている。 ・廊下には季節に合った絵、入居者全員に塗って頂いた塗り絵等を貼って明るい雰囲気作りをしている。	南と東に大きな窓がある明るいリビングには、華やかに立派な雛人形が飾られ、春の訪れを感じさせる。温もりのある木の床は、心安らぐ空間である。利用者は、自室で寛ぐ人、リビングでおしゃべりする人など思い思いの過ごし方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにはTV・ソファを置いている。 ・居室でテレビを観たりゆっくり出来るよう自由にしている。食堂には自席を設け、入居者同士が雑談出来るようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇や使用していたタンスなど使い慣れたものを持ち込んでいただいている。 ・家具には衣類の名称をラベルに記入して貼り解りやすくしてある。(入居者のレベルに合わせた対応。)	自室で使い慣れた家具や仏壇などを持ち込み、家族の写真などを飾った個性ある部屋作りをしている。部屋にトイレも設置されており、自宅に近い過ごし方が出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・食器棚・タンスなどには、どこにしまうのかそれぞれわかるように表示している。 ・トイレの場所が分かるように案内などの表示がある。 ・居室入口にはネームプレートをかけ、分かりやすくしている。		